

■牧草 除草剤

	薬 剤 名	毒 性	使用方法 使用時期	10a当たり 使用量	使用 回数 以内
			秋期新播草地 ギンギン類の栄養生長期 但し最終採草後	200~300ml	
			秋期経年草地 ギンギン類の栄養生長期 但し最終採草後	300~400ml	
	ハーモニー75DF水和剤	-	【経年】 夏及び秋処理 採草21日前まで	3g	1回
			【新播】 夏および秋処理 夏播種牧草定着後 ギンギン類の草丈20cm以下	0.5~1.0g	

主な対象雑草								使用上の注意事項	
ギンギン		イネ科		広 葉		フキ	ワラビ		
実生	経年	実生	経年	実生	経年				
	○							<ul style="list-style-type: none"> ・処理後一時的に生育抑制及び黄化がみられることがある。 ・ギンギン類の実生が秋期に発生した場合には、秋期にも使用できる。 ・秋期は種の場合には翌春処理が望ましい。 ・単播草地に適用する。 ・北海道での秋期散布は、最終採草後に行う。 ・散布後7日間は放牧を行わない。 	
○	○								<ul style="list-style-type: none"> 【経年】 ・イネ科単播経年草地およびアルファルファとの混播草地。 ・薬剤散布後21日間は採草および放牧を行わない。 【新播】 ・クローバに対する薬害が著しい。 ・茎葉処理のためギンギン類の葉が展開してから行う。
○									

■牧草地更新用 除草剤

雑草 茎葉散布	クサトリキング	-	・雑草全般 ・雑草の生育盛期 ・耕起の10日以前	250~500ml (水50ℓ)	2回
			ギンギン類・シバムギ	500~700ml (水50ℓ)	
は播前雑草 茎葉散布			・フキの栄養生長期 ・春処理5月上旬~下旬 ・耕起の10日以前	600~800ml (水50ℓ)	
			・は種10日前~は種当日 ・は種床の雑草発生揃期	250~500ml (水25~50ℓ)	
雑草 茎葉散布	タッチダウンIQ	-	・雑草全般 ・雑草の生育盛期 ・耕起の10日以前	300ml (水25~100ℓ)	2回
			ギンギン類	300~500ml (水50~100ℓ)	
			・フキの栄養生長期 ・春処理5月中旬~下旬 ・耕起の10日以前	600~750ml (水50~100ℓ)	
			・リードカナリーグラス ・8月中旬の2番草収穫から 約20~30日後 (リードカリーグラス草丈20~50cm)	500~750ml (水50ℓ)	
は播前雑草 茎葉散布			・は種床の雑草発生揃期 ・は播10日前からは播当日	200~300ml (水50~100ℓ)	
雑草 茎葉散布	ラウンドアップ マックスロード	-	・雑草の生育期 ・耕起の10日以前	200~300ml (水25~50ℓ)	3回
			・ギンギン類の生育期 ・耕起の10日以前	300~500ml (25~50ℓ)	
			・リードカナリーグラス ・8月中旬の2番草収穫から 約20~30日後 (リードカリーグラス草丈20~50cm)	500~750ml (水50ℓ)	
は播前雑草 茎葉散布			・は種床の雑草発生揃期 ・は播10日前~は種当日まで	200~300ml (水50ℓ)	

				○					<ul style="list-style-type: none"> ・刈り取り後、前植生の再生を待って処理する。 ・専用ノズルを使用する。
	○			○				○	<ul style="list-style-type: none"> ・フキの葉が大きくなりすぎないうちに処理する。 ・専用ノズルを使用する。
○	○	○	○	○	○				<ul style="list-style-type: none"> ・主要雑草が出揃うのを待って処理する。 ・砕土・整地は丁寧に行い、処理後は鎮圧以外の表土攪乱をさける。 ・専用ノズルを使用する。 ・薬量の増加に伴い、は種牧草の発芽数が減少する傾向が認められるので10a当たり製品使用量を守る。 ・泥炭土での使用は避ける。
								○	<ul style="list-style-type: none"> ・刈取り後、前植生の再生を待って処理する。 ・専用ノズルを使用する。
									<ul style="list-style-type: none"> ・専用ノズルを使用する。 ・2番草収穫（最終刈取）後、リードカリーグラスの再生草丈を確認して処理する。 ・リードカリーグラスは実生発生が懸念されるため、「播種前雑草茎葉散布（播種床処理）」と組み合わせることが望ましい（泥炭土を除く）。
○	○	○	○	○	○				<ul style="list-style-type: none"> ・主要雑草が出揃うのを待って処理する。 ・砕土・整地は丁寧に行い、処理後は鎮圧以外の表土攪乱をさける。 ・専用ノズルを使用する。 ・薬量の増加に伴い、は種牧草の発芽数が減少する傾向が認められるので10a当たり製品使用量を守る。
○	○	○	○	○	○				<ul style="list-style-type: none"> ・刈取り後、前植生の再生を待って処理する。 ・専用ノズルを使用する。
									<ul style="list-style-type: none"> ・専用ノズルを使用する。 ・2番草収穫（最終刈取）後、リードカリーグラスの再生草丈を確認して処理する。 ・リードカリーグラスは実生発生が懸念されるため、「播種前雑草茎葉散布（播種床処理）」と組み合わせることが望ましい（泥炭土を除く）。
○	○	○	○	○	○				<ul style="list-style-type: none"> ・専用ノズルを使用する。 ・泥炭土での使用を避ける。